



東京都教育相談センターだより

東京都教育相談センター
Vol.35 平成20年8月15日
東京都文京区本郷1-3-3
電話 03-5800-8545
FAX 03-5800-8402

気がかりな子供たち その3

「気がかりな子供たち」は全5回の特集です。

死への傾斜を抱えた子供たち (2)自殺未遂を繰り返し、様々な症状を呈する子供たち
家庭又は学校で自殺を図った子供たちには二つのタイプがあります。

一つは家庭でも学校でも目立った行動がなく、おとなしく自己表現が少なく、「死にたい」気持ちを誰にも気付かれなかったタイプです。もう一つは「死にたい」気持ちを言葉にし、様々な自殺企図を行い、周りを振り回しているタイプです。

今回は後者について、どのような点に注意してかわっていけばよいのかを考えます。



学校で見られる様子は？

希死念慮（死にたいという観念、または考え）を、教師や親しい友人、異性に繰り返し訴え、自分の存在を強くアピールします。

自傷行為や自殺のほめかし、家出を繰り返します。また、突然の意識の消失、過呼吸発作などの様々な症状が見られます。

表面的には会話をする友達もいて、孤立しているようには見えません。

成績や学習に全く関心のない子供もいれば、出席や成績にこだわり、よく勉強する子供もいます。



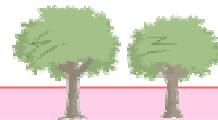
子供の特徴は？



幼い頃から保護者の養育が十分とはいいがたく、養育放棄、心理的虐待に加えて、身体的暴力を受けていることもあります。

家庭でケアされずにきたため、自己肯定感が低く、人から見捨てられたという気持ちも強いいため、特定の教師や友人、異性にしがみつがちですが、十分に人を信頼することができません。

かかわりのポイント



1 一人で抱え込まない

「死にたい」と訴えたり、行動化（自殺行為など多様な行動）も激しかったりするので、教師は振り回されることを覚悟して対応することが必要です。そして、「内緒にして」と言われても、一人で抱え込まず、校内で情報の共有化を図ることが大切です。

2 会う時間や場所を定める

子供の訴えを受け止めるとともに、会う時間や場所を決めるなどのルールを作り、現実的な枠や距離を保つように努めます。このことが、教師自身にとっても、人から見捨てられたという気持ちの強い子供にとっても、安定したかかわりをもたらすこととなります。

3 医療機関と頻繁に連携をとって対応する

危機的な状況が緊急に起こる場合もあり、医療機関をはじめ多様な機関との連携が欠かせません。事前に保護者の了解を取って、対応できるようにしておきます。

進路相談会を開催しました

- | | | |
|-----|----------|--|
| 第1回 | 7月19日(土) | 会場:東京都多摩教育センター
説明:世田谷泉高校・荻窪高校・砂川高校 |
| 第2回 | 7月27日(日) | 会場:東京都教職員研修センター
説明:稔ヶ丘高校・足立高校、通信制サポート校・東京ネットワーク |
| 第3回 | 8月2日(土) | 会場:東京都教職員研修センター
説明:桐ヶ丘高校・浅草高校・一橋高校 |

進路相談会は、不登校や中途退学等により、進路についての情報や助言が得にくい状況にある方やその保護者が適切な進路選択ができるように支援するものです。

今年度、第1～3回の進路相談会を開催したところ、904名(525組)の参加がありました。

各回とも、全体会においてチャレンジスクールや昼夜間定時制、通信制についての説明及び入学した生徒の学校生活の様子を紹介しました。そして、都民の方から要望の多い通信制サポート校のしくみについても、説明を行いました。また、個別相談では、個々の状況に応じて情報提供と具体的なアドバイスを行いました。

参加者からは、「いろいろな道があるとわかり、安心しました。」、「都立高校の現状を聞くことができてよかった。進路決定の助けになりました。」などの声が寄せられました。

10、11月に行う進路相談会も、今回と同様の2会場で3回開催します。入試の具体的な説明、特に学力検査によらないチャレンジスクールの入試のしくみや選考方法等の紹介を予定しています。

学校教育相談推進校合同研修会の報告

当センターの学校教育相談推進校事業は、都立学校における教員の教育相談に係る資質の向上及び校内の教育相談体制の構築を目的としています。今年度は4校の高校及び特別支援学校を指定し、年間を通じて支援をしています。

8月1日(金)には、各校の取組の一層の充実に向けて、合同研修会を行いました。

学校の概要や生徒の様子、そして学校教育相談の推進に向けた取組状況報告の後、生徒理解をさらに深めるために、ロールプレイの演習を行いました。

ロールプレイの経験がない方も多かったようでしたが、生徒役を演じることによって、「生徒の気持ちに気付いた。」、「生徒が自分の言葉をどのように聞いているのか、わかったような気がする。」、「教員と生徒が話をするとき、生徒も教員の様子をうかがいながら話しているのかと思った。」というような感想が多く寄せられました。

ロールプレイを通して感じたことや、考えたことを、これからの教育相談活動に生かしてほしいと思います。